

農村地域における伝承・継承に対する 住民・出身者の意識分析

— 自立的地域運営に取り組む集落の Native 度に着目して —

山口 忠志

200720775

(経営・政策科学専攻)

指導教員

斎尾 直子

筑波大学大学院博士課程システム情報工学研究科

修士（公共政策）論文

平成 21 年 3 月

.....
The consciousness analysis of inhabitants and the immigrant for
tradition and the succession of the rural area

平成20年度 システム情報工学研究科修士(公共政策)論文概要

農村地域における伝承・継承に対する住民・出身者の意識分析 — 自立的地域運営に取り組む集落の Native 度に注目して —

専攻名

経営・政策科学専攻

学籍番号 200720775 学生氏名 山口 忠志

指導教員名 斎尾 直子

農村地域における文化の伝承・継承は、農村の環境管理には欠くことの出来ない役割であった。しかし、人口減少・高齢化等が問題となる中で、地域住民、外部の専門家、出身者など多様な主体が地域づくりの担い手となる例も増えている。これらを背景に、農村地域における伝承・継承活動に着目し、現代における各主体の特性及び地域づくりで果たした役割を調査し、農村地域における自立的地域運営に向けた人材発掘手法の提案を行うことを目的とした。また、地域住民の伝承・継承行動より、農村文化を伝え聞き、受け継ぐ存在（個人）を示す指標となる「Native 度」の提案を行うことを目指した。

調査では、農村集落の担い手となることが期待される地域住民の子や孫の意向を把握するために、当該地域住民とその子や孫に協力を要請し、アンケートを実施した。アンケート結果によって把握した、各個人ごとの「伝承」と「継承」の結果（伝承・継承形態）を、コミュニティごとに整理し、得点化を行い、その合計を各個人の「継承度」とした。コミュニティ別の傾向では、各コミュニティの歴史や文化の継承・共有と関連が見られた。

さらに、対象地域が行う地域づくりWSに参加観察を行い、ヒアリングを実施することで、自立的地域運営を担う主体の素養や思考を把握した。これより、地域づくりに参加する各人が相互に影響しあい、それが新たな伝承・継承方法となっている場合もあることを発見した。

これらを踏まえ、自立的地域運営を担う主体の Native 度を「継承度」と「年代」から各個人の地域文化に対する関わり方を示し、「地域外での居住経験」により居住歴を反映、「長子・非長子」の区分により、コミュニティにおける個人の位置づけを判断する指標とした。

その結果、Native 度は、本研究と同様のアンケートを実施することで、対象地域における自立的地域運営を担い得る存在を見出すため一助となり得ることがわかった。

今後は、出身者等の外の目を評価に加えることや、地域組織リーダー等のプランナーとしての評価を加え、地域づくりに関わる多様な主体の組み合わせに応じた地域が進むべき方向性や、ビジョンを示す指標とすることが課題である。

修士学位論文に関する対応説明書

経営・政策科学専攻
学籍番号:200720775
氏名:山口 忠志

論文タイトル:農村地域における伝承・継承に対する住民・出身者の意識分析
— 自立的地域運営に取り組む集落の Native 度に着目して —

上記論文に関する中間発表の際に出席教員から寄せられたコメントについて、次のように対処したので報告する。

- C1. 「村づくりに native 度がどの程度関連しているのかが不明、2つの地区を比較する意義が不明」
- C2. 「Native 度について、もう少し直観的な説明が必要」
- C3. 「Native をどのように捉えるか」
- C4. 「着眼点はユニークで興味深い。ただ、Native 度を計測すること、その構成要素を明らかにしたうえで、それをどう役立たせていくのかをもっと強くアピールしてほしい」

〈説明〉 Native 度について

□ご指摘を頂いた点について加筆しました。本研究の対象地域である農村においては、地域住民が、地図を見ずに空間を認知したり、カレンダーとは別の論理で時間(四季・人生)を意識し、周囲の多様な事物・現象に意味づけをしながら独自の世界観をつくりだしていることに着目し、それらを支える農村文化を伝え聞き、受け継ぐ存在(個人)を示す指標として「Native 度」を見出し、「自立的地域運営に向けた主体」のイメージを構成する要素としました。以上を、第2章(4)本研究における「Native 度」の考え方と定義として加えました。

〈説明〉二つの地区を比較する理由

□本研究の対象とした、高知県の町吾北地区・茨城県常陸大宮市塩田地区では、人口減少による限界集落の発生等が問題となる中で、吾北地区には、将来像を検討する体制が整備されています。同様に、農村文化の担い手減少が懸念される中で、塩田地区は江戸時代からの伝統文化を継承してきた体制が維持されていますが、新たな地域のあり方と組織づくりを模索し始めています。以上の地域特性に着目し、両地域を比較することにより、農村地域が抱える集落や文化の維持管理・継承の課題を検討します。検討にあたり、吾北地区を「協働型コミュニティ」、塩田地区を「文化保全型コミュニティ」としました。

- C5. 「昔の農村地域づくりの過程を Review に基づいた説明があるべき」

〈説明〉

□ご指摘を頂いた点について加筆しました。第1章(2)農村地域を含む住民参加研究の整理、(3)農村地域における文化の伝承・継承に関する研究の整理を加えました。

- C6. 「伝承事項について、カテゴライズする必要が無いのか？其々、性質が大きく異なるように見える」

〈説明〉

□ご指摘を頂いた点について加筆しました。第1章(3)農村地域における文化の伝承・継承に関する研究の整理において、既往文献のレビューを行うとともに、第2章(3)本研究における「伝承」と「継承」の定義において用語の定義を行い、伝承・継承の対象とする事項に関する整理を行いました。

C7. 「Visionと目標を持った地域はそれなりに元気」

〈説明〉

□ご指摘を頂いた点について加筆しました。第4章 地域住民の自立的地域運営に対する意識において、ワークショップ手法を活用した将来像づくりにおいて参与観察を行い、各主体の役割や特性を把握するとともに、地域づくりの経緯が異なる2つの地域を比較することで、これまでの地域づくりやビジョン・目標との関係を明らかに致しました。

C8. 「発信先としての外「よそもの」「若者」「ばかもの」も大事なのでは」

〈説明〉

□ご指摘を頂いた点については、本研究においても非常に重要な点となっています。まず、第3章 自立的地域運営に取り組む集落における伝承・継承に対する住民・出身者の意識で、アンケート調査を実施し、研究対象地域の地域住民と出身者の意見を把握することで、両者の意識差を示しました。さらに、第4章 地域住民の自立的地域運営に対する意識では、山間協働型コミュニティにおいて実施されたワークショップに、高知大生が参加した際の様子を記述し、よそ者と地域住民との意識差、よそ者が参加することの効果を一層明らかに致しました。

C9. 「文化の継承には、それを支える地域の生活や経済があるはず。生活がなければ、「自立的運営」などできない。根本的に考え直した方がいいのでは」

〈説明〉

□ご指摘の点が不足していたと思います。第2章 (1)研究対象地域の概要において、地域の生活、文化について整理するとともに、農業、経済等の基礎データの整理を加えました。

C10. 「非常に重要な研究だと思うが、目指す結論がやや当たり前のような気がする。Native度を高めることは手段であって目的ではないはず。誤解を与えないような論の展開を心がけてください」

〈説明〉

□ご指摘の点が非常に重要であると思います。第1章(5)農村地域における地域づくりの課題と本研究の目的において、自立的地域運営の必要性を整理し、第2章(4)本研究における「Native度」の考え方と定義において、Native度を設定する目的を整理しました。

C11. 「アンケート分析が未着手のためかもしれないが、やや論証に説得性が欠けている。研究としての客観性を慎重に確保することを念頭に論文をまとめてください。」

〈説明〉

□ご指摘の点について、中間発表後にアンケート分析を進め、その結果を第3章 自立的地域運営に取り組む集落における伝承・継承に対する住民・出身者の意識として加えました。

農村地域における伝承・継承に対する住民・出身者の意識分析

— 自立的地域運営に取り組む集落のNative度に着目して —

第1章 農村地域における地域づくりの経緯と課題

- (1) 農村地域における人口減少・高齢化と地域づくり 1
- (2) 農村地域を含む住民参加に関わる研究の整理 3
- (3) 農村地域における文化の伝承・継承に関する研究の整理 5
- (4) 農村地域の多様な主体による地域づくりの事例 6
- (5) 農村地域における地域づくりの課題と本研究の目的 7

第2章 研究対象地域及び研究の方法

- (1) 研究対象地域の選定理由 8
- (2) 高知県の吾北地区と茨城県常陸大宮市塩田地区の概要 9
- (3) 本研究における「伝承」と「継承」の定義 14
- (4) 本研究における「Native度」の考え方と定義 15
- (5) 研究の流れと方法 16

第3章 自立的地域運営に取り組む集落における伝承・継承に対する

住民・出身者の意識

- (1) 伝承・継承に関するアンケートの概要 17
- (2) 山間協働型コミュニティと農村文化保全型コミュニティにおける
伝承・継承に対する「住民」と「出身者」の意識比較 18
- (3) 継承度から見た山間協働型コミュニティと農村文化保全型コミュニティ
の伝承・継承に対する意識比較 21
- (4) まとめ 31

第4章 地域住民の自立的地域運営に対する意識

- | | |
|------------------------|----|
| (1) 自立的地域運営に対する意識調査の概要 | 32 |
| (2) 自立的地域運営に取り組む各主体の意識 | 34 |
| (3) まとめ | 37 |

第5章 農村の自立的地域運営を担う地域住民の特性分析

- | | |
|-------------------------------|----|
| (1) 自立的地域運営を担う地域住民のNative度の分析 | 38 |
| (2) 農村の自立的地域運営を担う地域住民の特性 | 41 |

第6章 結論

- | | |
|-----------------------------------|----|
| (1) 「共」の場づくりによる新たな伝承・継承の可能性 | 42 |
| (2) Native度の向上による自立的地域運営に向けて | 44 |
| (3) 農村の自立的地域運営を可能とする住民・組織間のネットワーク | 45 |

付録・資料

- 補1：高知県いの町吾北地区におけるアンケート結果報告資料
(山間協働型コミュニティ)
- 補2：茨城県常陸大宮市塩田地区におけるアンケート結果報告資料
(農村文化保全型コミュニティ)
- 補3：アンケート結果調査票

参考文献

謝辞